

令和 8 年度当初予算要求概要(施策の概要)

目次

I. はじめに	1
II. 分野 1：ひとづくり（子育て・教育・人権・男女共同）	
1. 目指す考え方	1
2. 具体的な取組内容	
（1）安心して子どもを産み育てられる環境の充実	2
（2）誰一人取り残さない支援と子どもの貧困対策	2
（3）学びの環境の進化と多様な教育支援	2
（4）誰もが安心して暮らせる社会づくり	2
III. 分野 2：しごとづくり（観光・産業・労働）	
1. 目指す考え方	3
2. 具体的な取組内容	
（1）持続可能な観光地づくり	3
（2）地域産業の活力向上と多様な働き方の創出	3
（3）農林業振興と鳥獣対策の推進	4
IV. 分野 3：くらしづくり（福祉・健康・地域活動・いきがい・文化）	
1. 目指す考え方	4
2. 具体的な取組内容	
（1）高齢者や支援が必要な人に寄り添う福祉	4
（2）健康寿命の延伸と予防対策の充実	5
（3）文化・スポーツの振興と地域コミュニティ	5
V. 分野 4：まちづくり（安全・安心・環境・衛生・都市基盤）	
1. 目指す考え方	5
2. 具体的な取組内容	
（1）防災・防犯力の強化	6
（2）快適で魅力ある都市空間と交通ネットワーク	6
（3）環境保全と循環型社会の推進	7
（4）公園の魅力向上	7
（5）動物愛護の推進	7
VI. 分野 5：しくみづくり・基盤的取組（協働、行財政運営）	
（1）定住促進と地域力の強化	7
（2）市役所窓口の利便性の向上	7
（3）安全で持続可能な行財政運営と職員力強化	8

I. はじめに

現在、本市では令和 8 年度の当初予算編成を進めています。物価高騰の継続や公共施設の老朽化、子育て・福祉ニーズの増加などにより、今後の財政運営は一段と厳しくなる見込みです。

こうした状況を踏まえ、令和 8 年度予算では、AI の活用などを通じて DX を推進することで効率化を図りつつ、限られた財源をより効果的な施策へ重点的に配分することを基本的な方針としています。

本資料は、市民の皆さまの暮らしがどのように変わるのか、奈良市がどのような未来を目指すのかといった観点から、令和 7 年 11 月末時点における各所属の令和 8 年度当初予算の主な要求内容を整理したものです。記載している取組は要求段階のものであり、今後、関係部局との調整などを経て予算案を編成するため、ここに掲載された事業の実施を確約するものではありません。

予算編成過程の一部を公開し、市民の皆さまから率直なご意見を伺うことで、今後の市政運営に活かしていきたいと考えています。

II. 分野1:ひとづくり

(子育て・教育・人権・男女共同)

1. 目指す考え方

すべての子どもが権利の主体として尊重され、家庭の経済状況や環境にかかわらず、公平に学び、健やかに育つことができる環境を整えます。妊娠・出産から社会的自立に至るまで、切れ目のない支援を意識し、誰もが自分らしく輝ける多様性を尊重した社会づくりを進めます。

2. 具体的な取組内容

(1) 安心して子どもを産み育てられる環境の充実

子育て家庭の経済的・心理的負担を軽減するため、子どもの医療費助成として新たに乳幼児医療費の無償化を実施し、未就学児期の子どもたちが早期に安心して医療を受けられる環境を整えます。

妊娠期から出産・子育て期まで切れ目のない相談支援事業や、産後ケア事業を充実させ、安心して子育てができる支援体制を強化します。

産前産後の家事支援(エンゼルサポート)を利用区分の統合や時間拡大で利用しやすい制度に変更し利用促進を図ります。

また、不妊治療を行う夫婦に対する費用助成を継続し、経済的負担の軽減を図ります。

本市の幼児教育・保育における課題を解消し、持続可能でより充実した環境を整備するため、市立幼保施設の統合・再編や民間園のこども園化に伴う施設の整備費等の補助を実施します。

(2) 誰一人取り残さない支援と子どもの貧困対策

経済的に困難な状況にある家庭の子どもたちが将来に希望を持てるよう、年代別に学習支援等の進学に関わる支援や、食の支援(フードバンク)などの取組を実施します。

また、様々な悩みを抱える子育て世帯への支援として、24 時間対応可能な SNS を活用した AI チャット相談を導入し、悩み事を気軽に相談できるツールを使用することで、子育て世帯の孤立を防ぎます。

虐待対応においては、ICT を活用した業務効率化で迅速な対応を図るとともに、虐待を受けた児童の心理的負担を軽減するため、司法面接等の場に「付添犬(セラピー犬)」を導入するなど、子どもの心に寄り添った取組を進めます。

(3) 学びの環境の進化と多様な教育支援

中学校部活動については、地域クラブへの移行を進め、指導体制やコーディネーターの配置、用具の整備等を通じて、持続可能なスポーツ・文化活動の環境を整えます。

学校教育においては、すべての子どもたちが安心して学べるよう、小学校へのエレベーター設置によるバリアフリー化を推進するとともに、老朽化した施設の改修を実施します。

また、教員が子どもたちと向き合う時間を十分に確保するため、事務作業等を補助するスクール・サポート・スタッフの配置を拡充し、教職員の支援体制を充実します。

不登校傾向にある児童生徒に対しては、学校内で安心して過ごせる「校内サポートルーム」の設置校を拡大し、個々の状況に応じた多様な学びの場を提供します。

さらに、特別支援教育支援員の配置拡充や特別支援教育サポートシステムの運用により、特別な支援を要する子どもたち一人ひとりに寄り添った、きめ細かな支援の充実を目指します。

国の動向を踏まえ、保護者負担の軽減を図りつつ、地産地消の推進など給食の質の維持にも努めます。

(4) 誰もが安心して暮らせる社会づくり

困難な問題を抱える女性やその周囲の方への支援として、性別を問わず利用できる 24 時間対応可能な SNS を活用した AI チャット相談を導入し、時間や場所を問わずさまざまな悩みを相談できる体制を整えます。

Ⅲ. 分野2:しごとづくり

(観光・産業・労働)

1. 目指す考え方

奈良が持つ歴史・文化・自然という類まれな資産を最大限に活かし、地域経済の活性化を図ります。観光産業においては、特定の季節や場所に集中する混雑(オーバーツーリズム)の緩和と、災害時でも安心して滞在できる強靱な観光地づくりを進めます。また、地元企業の経営基盤強化やスマート農業の推進により、若者が奈良で働き、定着したくなる魅力ある産業のあり方を形にします。

2. 具体的な取組内容

(1) 持続可能な観光地づくり

持続可能な国際文化観光都市・奈良を目指し、持続可能な観光アクションプランに基づき魅力と価値の向上を図ります。旅館・ホテルなどの事業者には、環境や地域に配慮した国際認証の取得を支援します。

修学旅行の誘致においては、閑散期の利用を促進する補助制度などを活用し、年間を通じて安定した賑わいを創出します。

また、近年頻発する自然災害に備え、観光特化型の危機管理計画の策定や演習を行い、旅行者が安心して訪れることができる「安全な観光都市」としてのブランド価値を高めます。

道の駅「針テラス」の再整備や旧柳生藩家老屋敷の文化財としての再築を進めます。専門的な支援を受けつつ事業を推進し、地域の魅力を高める新たな拠点づくりを進めていきます。

さらに、サマルカンド市との姉妹都市提携 5 周年にあたる令和 9 年に開催を目指す中央アジアの貴重な文物を集めた奈良・サマルカンド特別交流展に向けた取組を進めます。

(2) 地域産業の活力向上と多様な働き方の創出

IT 企業などのサテライトオフィス誘致を積極的に進め、多様な職種や新しい働き方が奈良で実現できる環境を整備します。

物価高騰や人手不足などの厳しい経営環境にある市内中小企業に対し、設備投資への融資や経営支援を行い、事業の継続と雇用の維持を図ります。

伝統産業においては、後継者育成・発掘のための研修や産地留学事業を実施し、奈良の伝統工芸技術を次世代へと継承します。

(3) 農林業振興と鳥獣対策の推進

担い手の減少や高齢化の進行による労働力不足等の課題に対応するため、スマート農業技術の導入を促進し、生産性の高い農業への転換を図ります。

地産地消を推進するプロモーション等を通じて、農産物の流通を促進します。

イノシシ・ニホンザル・ニホンジカなどによる農作物被害対策を継続して実施するとともに、ツキノワグマによる人身被害防止のため、パトロールや注意喚起、緊急銃猟等についての体制を整備し、情報提供と現場対応力の向上を図ります。

IV. 分野3:くらしづくり

(福祉・健康・地域活動・いきがい・文化)

1. 目指す考え方

年齢、性別、障害の有無にかかわらず、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりを進めます。家庭や地域で困りごとを抱える方の相談体制を強化し、支援が必要な方に確実に届く仕組みを整えるとともに、誰もが互いを尊重し合いながら暮らしていける地域社会をつくりま

す。

また、文化・スポーツ活動を通じて市民同士がつながり、心身ともに豊かに暮らせる機会を創出します。

2. 具体的な取組内容

(1) 高齢者や支援が必要な人に寄り添う福祉

家族形態の変化に対応し、「身寄りのない高齢者」が入院時や死後の手続き等で困らないよう、新たな支援の仕組みを構築します。

また、認知症や社会的孤立など、多様な悩みを抱える高齢者や家族への支援として、24 時間対応可能な SNS を活用した AI チャット相談を導入し、悩みの初期段階で支援につなげ課題の深刻化を防ぎます。

支援が必要な高齢者を早期に発見し、適切なサービスへとつなぐよう地域包括支援センターの機能を強化します。

障害のある方への支援としては、障害福祉サービスの提供、医療費の負担軽減、バスやタクシー料金の助成を継続し、生活支援を行うとともに、社会参加の機会を保障します。

生活保護世帯に対しては、近年の酷暑等を踏まえ、熱中症を防ぐためのエアコン設置費用助成を行うことで、生活環境の改善を支援します。

若者の自立支援や就労支援を継続し、困難を抱える若者への寄り添い支援を行います。

(2)健康寿命の延伸と予防対策の充実

市民の皆様が健康で充実した毎日を長く送れるよう、各種がん検診(胃・肺・大腸・子宮・乳がん)や、ICTを活用した糖尿病重症化予防プログラム(身体データの見える化と保健指導)を推進し、病気の早期発見・予防に努めます。

また、男性の HPV ワクチンの任意予防接種費用を助成し、経済的な負担を軽減します。

予防接種法に基づく定期接種を実施し感染拡大を防止するとともに、令和 8 年度から妊婦を対象に RS ウイルス予防接種を追加します。

がん治療に伴う外見の変化に悩む方へウィッグ等の購入費補助を行い、自分らしく社会生活を送れるよう支援します。

(3)文化・スポーツの振興と地域コミュニティ

文化施設・スポーツ施設、公民館などの改修や設備更新により、快適で利用しやすい環境を整えます。

新たな(仮称)文化財センターの建設に向けた設計を進め、富雄丸山古墳の出土品展示を中心に奈良市の文化財が持つ歴史的価値を発信する施設を整備します。

図書館利用の利便性を高めるため、図書受取ロッカーの増設を行います。

東部地域においては、地域住民が主体となって地域づくりを進められるよう、地域おこし協力隊や集落支援員制度を活用し、地域課題の解決に向けた取組を実施します。

また、東部地域の拠点施設の実現に向けても取り組みます。

V. 分野4:まちづくり

(安全・安心・環境・衛生・都市基盤)

1. 目指す考え方

頻発・激甚化する自然災害から市民の命と財産を守るため、ハード・ソフト両面からの防災対策を強化します。また、鉄道駅周辺の再開発や道路網の整備により交通利便性を向上させるとともに、脱炭素社会の実現に向けた環境対策や、老朽化したインフラの計画的な更新を進め、将来世代に負担を残さない持続可能な都市基盤を整備します。

2. 具体的な取組内容

(1) 防災・防犯力の強化

災害時の避難所機能を強化するため、避難所となる学校等にマンホールトイレを整備するとともに、水源確保のための井戸や資機材倉庫を設置し、ライフラインが寸断されてもトイレに困らない環境の確保に努めます。

ロート奈良鴻ノ池パーク(鴻ノ池運動公園)の防災機能強化事業として、災害時に広域避難所や物資拠点として機能するため、耐震性貯水槽の設置と非常用自家発電設備の導入を行います。

避難行動要支援者の情報管理システムを導入し、個別避難計画作成と迅速な安否確認・関係機関への情報共有を行い、支援提供の円滑化を図ります。

また、電源を必要とする在宅医療機器使用者を把握し個別支援を進めるとともに、関係機関連携や非常用電源の整備を通じて災害時等の安全確保を図ります。

防犯面では、街頭防犯カメラを計画的に増設し犯罪や交通事故から市民を守ります。

消防・救急体制については、救急隊の技術向上のため、高機能な訓練機器の導入や、マイナンバーカードを活用した救急搬送円滑化システムを導入し、救命率の向上を図ります。

(2) 快適で魅力ある都市空間と交通ネットワーク

JR 関西本線の高架化や新駅設置、京奈和自動車道(仮称)奈良 IC の整備にあわせ八条・大安寺周辺地区の整備を進めます。また、企業の先端技術を生かした産業の集積を目指し、「新産業創造拠点」の形成を図ります。

また、本市の南北軸を形成する大和中央道においては、未整備となっている若葉台工区の整備を進めます。

駅周辺の交通対策として、富雄駅前の通学路整備事業を継続するとともに、菖蒲池駅南側、西ノ京駅西側において、歩行者の安全と円滑な交通の確保に向けた取り組みを進めます。

さらに、近鉄奈良駅においてはエレベーター設置によるバリアフリー化を進め、近鉄高の原駅においては、住区の境を超えた交流が生まれる公共空間を目指し、駅前広場の再整備を行います。

JR 平城山駅佐保台側の駅前広場から跨線橋への段差を解消するためスロープを設置し、高齢者、障害者等の移動の円滑化と安全性向上を図ります。

道路などのインフラについては、橋梁の耐震補強や六条奈良阪線・三条線の無電柱化を継続して計画的に進めます。

さらに、災害時の緊急輸送道路に直結する主要道路のうち、舗装状態が悪化している幹線道路について、重点的な整備を実施します。

また、路面下空洞調査や大規模盛土造成地等の変動監視を実施し、道路陥没や土砂災害を未然に防ぎます。

JR 奈良駅西口の地下駐車場の出入口には防水板を設置し、集中豪雨による浸水被害を予防します。

上下水道については、管や施設の更新・耐震化を計画的に行い、強靱な施設の構築を目指します。また、官民連携を進め、経営基盤の強化に努めます。

(3)環境保全と循環型社会の推進

老朽化が進むごみ焼却施設の大規模改修を行い、ごみの安定的な処理体制を維持するとともに、生ごみ処理機器の購入助成や啓発活動等を通じて一層のごみの減量化に取り組めます。

脱炭素社会の実現に向けては、住宅や事業所への太陽光発電設備の設置補助を行うほか、市役所駐車場へのソーラーカーポート導入を進め、再生可能エネルギーの地産地消を進めます。

(4)公園の魅力向上

ロート奈良鴻ノ池パーク(鴻ノ池運動公園)や黒谷公園、中登美ヶ丘近隣公園などにおいて、民間活力や大学との連携を取り入れたリニューアルや管理運営を行い、魅力ある公園づくりを進めます。

公園施設の長寿命化対策として遊具の更新も順次実施します。

(5)動物愛護の推進

動物愛護の分野では、犬猫の殺処分ゼロを継続するため、預かりボランティアへの謝礼増額や譲渡活動の周知を強化します。

VI. 分野5:しくみづくり・基盤的取組

(協働、行財政運営)

(1)定住促進と地域力の強化

市外から奈良市内への住み替えに伴う費用を補助し、子育て世帯の移住及び定住を支援します。

また、大学等の卒業後も若い世代が市に定着することを目的として市内事業者就職する若者に対して奨学金返還支援事業を継続します。これにより地域への愛着形成と地域企業の若手人材の確保につなげます。

県内の企業、大学、行政等で構成する「なら産地学官連携プラットフォーム」や、地域人材を育成するプロジェクトから生まれた「共創コミュニティ」を支援し、地域力・産業競争力の強化を目指します。

(2)市役所窓口の利便性の向上

引っ越しシーズンの窓口混雑を緩和するため、短時間で完了する手続きの専用窓口(ファスト窓口)を開設し、来庁者の待ち時間を削減します。

(3)安全で持続可能な行財政運営と職員力強化

災害発生時に市役所が司令塔としての機能を維持できるよう、本庁舎の非常用発電機の燃料タンク増設を実施します。

電話問い合わせ対応業務を見直し、コールセンターの DX 化と AI によるオペレーター支援により、回答率を高め、市民サービス充実と職員の負担軽減を図ります。

AI の利用環境の整備に加え、新ツールや技術の調査・研究に取り組み、業務効率化と新たな価値創出を目指して組織全体で AI 利活用を推進します。